

# しあわせ アート♡物語

iichiko総合文化センターでは、地域の皆さんのもとへ芸術の持つ楽しみや喜びをお届けするアウトリーチ活動を行っております。この『しあわせアート♡物語』には、さまざまなアウトリーチ活動企画を通じて、私たちとみなさんと芸術や文化の素晴らしさを共感できる、しあわせな時間を紡いでいきたいという思いを込めています。



『しあわせアート♡物語  
～おでかけクラシックコンサート～』は、大分県内各地の学校や施設などに音楽家を派遣する取り組みです。

「子どもたちに本物の音楽を聴かせたい」という学校の先生方、「日ごろ本格的なクラシック音楽に触れる機会が少ないので演奏に来てほしい」という地域の方々にご活用いただいています。

みなさんのもとへ演奏に出かけるのは、このプログラムに必要なスキルと条件を満たし、オーディションで選ばれた大分ゆかりの音楽家たち。

県内外で活躍中の若者たちが、実践のための研修やリハーサルを重ね、丁寧に本番に向けた準備をして、皆さんのために上質な音楽を奏でます。

## 6/4(火)中津市立樋田小学校

今回は中津市本耶馬浜町にある中津市立樋田小学校で開催し、全校生徒66名のうち3～6年生46名が、会場となった音楽室に集合しました。素敵な音楽を届けてくれたのは、大分を中心に活躍する音楽家、佐藤広美さん(ソプラノ)と穴井友香里さん(ピアノ)。まずは日本の童謡「赤とんぼ」「あわて床屋」、ドイツの「鱈」を曲の紹介を挟みながら披露しました。続いて、学生時代からチャペルで働いていたという佐藤さんらしい、「アメージング・グレイス」などの宗教音楽を歌いあげました。その際、教会の雰囲気再現すべく、生徒たちは正面を向いたまま、二人が音楽室の後ろにあるオルガンに移動し、後ろから音楽を聴くという演出を行いました。次に参加型の演目として、異なった2つの曲を同時に歌う「パートナーソング」に全員でチャレンジ。まずは模範演奏として佐藤さんと先生方が歌ってみると、生徒たちは聴いたことのない音楽に興味津々！ そのあと2班に分かれて、全員で「ロンドン橋」と「メリーさんの羊」を同時に歌いました。お互い負けないように大きな声で元気に歌い、みんな楽しそうでした。最後に披露したオペラ「ホフマン物語より『オリンピアの唄』」では、佐藤さんが人形に扮して歌うという演出で、止まった時にねじを巻く博士役として先生も参加し、生徒たちは大盛り上がり。最後に児童会長が代表で、「オペラや外国の歌を間近で聴くことができ、とても楽しかったです」と感想を述べました。音楽室にプロの生歌が響き渡るという、貴重な体験ができたようです。



ARTIST HIROMI SATO



アーティスト紹介

佐藤広美さん(ソプラノ)

HPを見てアウトリーチプログラムに興味を持ち、応募したという佐藤さん。教育大学を卒業していることもあり、「子どもと関わったり、一緒に歌えることや、福祉施設で童謡を披露し、喜んでもらえることが嬉しい」と語りました。披露する曲のセレクトは、自分の声に合った得意な曲や聴かせたいものなどを毎回マイナーチェンジしているそうで、今回のように、6年間チャペルで歌っていた経験を生かしたオリジナリティーのある楽曲も選曲しています。